

平成22年10月7日

駒宮 幸男 殿

理工系委員会主査 山下 正 廣

科学研究費補助金「特定領域研究」の事後評価結果について

研究領域名：ヒッグス粒子と超対称性の発見が切り拓く21世紀の素粒子物理学

平成22年9月9日に行われました理工系委員会における事後評価の結果、あなたを領域代表者とする上記研究領域について以下のとおり評価されました。

評価結果：A（研究領域の設定目的に照らして、十分な成果があった）

本研究領域に対する評価結果の所見については、別紙のとおりですのでお知らせします。
今後の研究の発展を期待しております。

また、評価結果の所見の内容についてさらに具体的な補足が必要な場合、希望者は、文部科学省の学術調査官から補足情報を得ることができます。照会にあたっては、「所見の内容のどの部分についての補足情報が必要か」を明記の上、電子メールにてお問い合わせ願います。なお、その際は必ず電話番号を付記してください。ただし、担当学術調査官への照会は平成22年10月31日までとし、それ以降は文部科学省研究振興局学術研究助成課へ照会願います。

なお、評価結果の所見の概要については、文部科学省から公表されるとともに、「府省共通研究開発管理システム（e-Rad）」に提供する場合がありますこと、念のため申し添えます。

<学術調査官>

学術に関する事項についての調査、指導及び助言に当たる大学等の研究者（文部科学省組織規則第53条、第62条）。科学研究費補助金の審査・評価に当たる審査会の議事運営、応募者からの相談への対応、審査結果に係る補足情報の提供等を行う。

本件担当 文部科学省研究振興局学術研究助成課科学研究費第二係

TEL：03-6734-4087 FAX：03-6734-4093

E-mail：yozatake@mext.go.jp, nakat@mext.go.jp

学術調査官 田口 真（立教大学・理学部・教授）

E-mail：taguchi@rikkyo.ac.jp

領域代表者：駒宮 幸男（東京大学・大学院理学系研究科・教授）

（事後評価に係る意見）

本研究領域では、ヒッグス粒子、超対称性の発見を目的に ATLAS 実験及び MEG 実験の推進を目指したが、LHC 加速器の事故により ATLAS 実験に遅れが生じたことは残念である。しかし、検出器が予定通り完成したことは、ヒッグス粒子の発見能力の向上と超対称性粒子の発見方法の確立という観点で高く評価できる。MEG 実験や理論研究を含めて、約 300 編の論文が発表され、研究領域の設定目的に照らして十分な成果があったと考えられる。研究協力体制の構築や若手の人材育成においても着実な進展があったと判断される。

しかし、本来の国際共同研究の成果はまだ十分に得られていないので、今後の実験の進行による成果に期待したい。

※評価基準等については、別添「科学研究費補助金における評価に関する規程（抜粋）」を参照すること。